

第 74 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

6月の研修会は湿生生態園の植生管理作業と、午後は雨が降ったため、皆伐後の樹林地の林床植生観察を行いました。



田植えを終え、谷戸山公園の田んぼは
若苗色に変わっていました。



はじめに講師から説明があり、
湿地環境管理の研修会はスタートです。



左は先月のヨシ刈り作業後の写真。右は今月(1ヵ月後)の同じ場所の写真です。流れのある部分をすでにヨシが覆ってしまっています。このように繁茂しすぎたヨシを刈り取り、多様な水辺植生を目指して、夏の間作業を続けます。



ノギリガマを使って、ヨシを刈っていきます。



作業中、見られた生きものです。左は、ヤマトクロスジヘビトンボ。幼虫期を餌となる水生昆虫が多い流水中で過ごし、羽化後成虫になり水辺に産卵します。右はセリ科の植物を食草とするアカスジカメムシ。湿生生態園には水辺植物のセリが生えているので、おそらくセリを目当てに来ていたのでしょう。

このように、維持管理された水辺をうまく利用して暮らしている生きものも多くいるのです。



左は作業前、右が作業後です。ヨシに覆われていた水路が見えるようになりました。
その後、簡単な植生調査を行ってから清掃をし、昼食です。



午後は恒例の、環境に関する気になる記事の発表です。
今回も震災、原発、エネルギー関連の話が目立ちました。



その中で講師から、身近に生えるコマユミで作ったホウキの紹介がありました。
このような身近な自然を利用した製品は、公園管理を続けていく中で出る
間伐材などの利用法の参考になります。

その後、雨が降ってきたため、午後の作業は中止し、皆伐後の樹林を見に行きました。



皆伐から4ヶ月程経った樹林地です。
見回すと、切り株から出ている芽が目立ちますが…



よく見ると、地面から実生もたくさん出ていました。右の写真のアカメガシワが多く見られましたが、他にもコナラやウワミズザクラなど、様々な種が確認できました。



こちらは葉が焼けてしまっているアオキ。林床植生で
暗いところが好きなアオキにとっては、裸地化し、
日当たりが良くなってしまうと暮らしにくいという事ですね。

最後に講師からまとめと質疑応答があり、6月の研修会は終了です。今後も湿地環境管理の研修と並行して、皆伐後の樹林のモニタリングを続けていく予定です。ぜひ皆さんご参加ください。